看護技術教育に関する研究

看護学科（基礎看護学）
看護学研究科（看護技術学）　山口　みのり

（本研究内容についてご興味のある方は、地域・産学連携推進室までご連絡ください。
TEL：054-264-5124　E-Mail：renkei@u-shizuoka-ken.ac.jp）

キーワード　看護技術，看護実践，看護教育，新人看護師，看護史

研究テーマは、技術教育。初学者である学生が看護技術を学び始めるところから、新人看護師として育ち、対象に合わせた看護を提供できる一人前の看護師になるまでの過程を追っています。これまで、新人看護師の看護実践の参加観察を通して、看護技術の習得過程を調査してきました。同時に、彼らにどのような教育・指導体制が望ましいのか、教育方法を検討しています。

また、看護技術・教育に関する歴史研究を行っており、技術教育の変遷をたどることで、現在の看護教育の課題、今後の展望を考えていきたいと思っています。

「新人看護師の排泄援助の習得過程」一部抜粋

【カテゴリー】	＜サブカテゴリー＞	先輩看護師の指導的かかわりを示すデータ例
視点１：先輩看護師に指導された技術内容		
視点２：新人看護師が先輩看護師から求められていると認識した視点		
視点３：先輩看護師に指導されたポイント		
（　省　略　）		
視点４：排泄援助を行う姿勢		
【先輩看護師の言ったことに従う】	＜先輩看護師の言ったことに従う＞	「自分はただ先輩に付いて歩いて『じゃオムツチェックしようか』って、もう言われたことだけやってて」（藤井さん） 「『オムツ交換行くよ！』みたいな感じで言われて、あたふたしながらとりあえずエプロンと手袋つけて『はい』みたいな」（井上さん）
変化		
【先輩看護師の多様な看護観に触れ、自分なりの排泄援助を考える】	＜先輩看護師の多様な看護観に触れる＞	「面白かったです。先輩の看護観に触れられて、ちょっと考える機会になったかなと思います」（木村さん） 「その日の看護師の考え方で、失禁してオムツ交換する時もあれば、トイレ誘導する場面もある」（内野さん）
	＜自分なりの排泄援助を考える＞	「『患者さんの反応とかそういうのもちゃんととらえていかなきゃいけない』って言われて、その部分だけの援助じゃなくて、その人を把握して援助に関わるようにしている」（堀田さん） 「患者さんに訴えがないので、けっこう後回しにしたくなっちゃうんですけど、でもそこを先に回って対応していくのがその人のためだしって思うと、以前この人早めに見てって言われたことを最近思い出しました」（井上さん）

山口みのり：新人看護師における排泄援助の習得過程－新人看護師が認識している先輩看護師の指導的かかわり－日本看護学教育学会 24(3)p.89-100 より、研究結果一部抜粋